

※1 他地域の事例詳細

① 神奈川県外の取り組み

●静岡県富士宮市（食に関する取り組み）

項目	内容
名称	富士宮やきそば
事務局	NPO法人まちづくりトップランナーふじのみや本舗
目的	やきそばによる街おこし
事業開始	平成11年
品目・店舗数	140店舗
概要	<p>富士宮市は、富士山本宮浅間大社を中心とする門前町として発展し、かつては「大宮の市」を開き大変賑わっていたが、中心市街地が空洞化してきたため、かつての賑わいを取り戻そうと、富士宮市と富士宮商工会議所が「中心街活性化ワークショップ」を開催した。</p> <p>そこに参加した市民たちが、他県にはない特徴のある「やきそば」に注目し、活動を開始した。</p> <p>商工会議所の空き店舗対策として、まちづくりサロン「宮っ」を設立し、そこを活動拠点とし、「富士宮やきそば学会」を設立。</p> <p>学会メンバーは「G麺」と呼ばれ、やきそば店の調査をし、やきそばマップやのぼり旗を作成しPR活動を行った。</p> <p>PR活動としては、ギネスへの挑戦や、「横手焼きそば」の秋田県横手市、「太田焼きそば」の群馬県太田市、富士宮市の三市で「三国同麺協定」を締結し、「三国同麺シリーズ」の全国コンビニエンスストアでの販売や、富士宮市の「富士宮焼きそば」と北九州市の「小倉焼きうどん」の対戦などを行った。</p> <p>平成16年には「富士宮やきそば」を商標登録し、アンテナショップをオープンした。また、富士宮やきそば「カップ麺」の販売や、富士宮～東京駅を走るバスの愛称を「やきそばエクスプレス」と命名するなどの活動も行っている。</p> <p>平成18年、19年には2年連続B1グランプリにて優勝し、知名度の向上や来訪者の増加による経済効果は、平成13年～18年の6年間で217億円と推計されている。</p>

●栃木県宇都宮市（街づくりに関する取り組み）

項目	内容
名称	宇都宮プライド 「住めば愉快だ宇都宮」
事務局	宇都宮市 総合政策部政策審議室 都市ブランド戦略室
目的	市の魅力向上による街おこし
事業開始	平成21年
品目・店舗数	「○○○愉快だ宇都宮」参加団体 42団体
具体例	「読めば愉快だ宇都宮」（図書館）「買えば愉快だ宇都宮」（商店街）「洗えば愉快だ宇都宮」（クリーニング業者）
概要	<p>全国的に少子高齢化社会と言われる中、宇都宮市の人口も今後減少していくだろうという調査結果がまとまり、第5次総合計画の中に持続可能な宇都宮市をめざすための都市ブランド化計画が盛り込まれこの事業が開始された。</p> <p>市は「餃子」「ジャズ」「カクテル」など個々に知名度のある街の魅力の一体的なPRを考えたが、行政では、市外への情報発信のノウハウがないため、広告代理店を利用しアイデアを取り入れた。</p> <p>平成21年秋には市のブランドメッセージ「住めば愉快だ宇都宮」を打ち出した。</p> <p>ブランドメッセージの開発には、宇都宮の魅力や誇りなどについて自由に話し合うワークショップを開催し、市民のボランティア活動として、宇都宮の魅力を探し出すことから始まった。そこで、「宇都宮ならではの魅力」を検討し、イベントなどでの一般市民の意見を反映し、協議会にて最終決定した。</p> <p>現在は、「住めば愉快だ宇都宮」を活用し、ポスターや愉快CMを作成。また、インターネットサイトの運営により、事務局と市民の相互交流が行われている。</p> <p>事務局に大手広告代理店である博報堂の社員が加わっており、他のブランド事業ではあまりみられない例である。</p>

●石川県金沢市（農産物に関する取り組み）

項目	内容
名称	いいね金沢 加賀野菜
事務局	金沢市農産物ブランド協会
目的	特産農産物の消費拡大
事業開始	平成9年
品目・店舗数	加賀野菜販売店79店舗 加賀野菜料理提供店76店舗
具体例	金時草・加賀太きゅうり・源助だいこん・加賀れんこん等
概要	<p>昔から季節感に富んだ特産野菜、加賀野菜が数多く引き継がれているが、生産者が増産性や耐病性を追い求め、消費者も見た目の綺麗さや調理の簡便さを第一に考える時代風潮とともに、加賀野菜が市民から忘れられ、生産農家も減少の一途を辿ってきた。</p> <p>こうした背景のもと、金沢の財産でもある加賀野菜を受け継ぎ、後世に伝えながら生産振興と消費拡大を図るため、平成3年に市内種苗店と農家6戸による「加賀野菜保存懇話会」が設立された。平成9年にはここに流通業界、消費者、農業団体、生産者、行政が加わり、「金沢市農産物ブランド協会」が設立された。</p> <p>加賀野菜の定義は、昭和20年以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている野菜で、現在15品目が認定されている。</p> <p>ブランドシールは認定野菜で、高品質（秀品）のもののみ添付できる。</p> <p>加工品についても、認定基準を満たしたものには、「加賀野菜加工品認定マーク」が使用できる。</p> <p>加賀野菜を取り扱う店舗や加賀野菜料理を提供する店舗には登録制度があり、3年間毎の更新でその都度審査があり、更新に伴い更新料も発生する。</p>

●福井県鯖江市（工業製品に関する取り組み）

項目	内容
名称	鯖江ブランド創造発信事業 「SABAE Style」
事務局	鯖江商工会議所
目的	消費者に直接販売できる商品の開発
事業開始	平成21年
品目・店舗数	16種の製品
具体例	チタン製靴べら・竹型和紙照明・石田縞バッグ等
概要	<p>鯖江市は眼鏡・漆器・繊維を中心に、産業都市として発展してきた。「ものづくりの街」として発展してきた鯖江市だが、委託生産が中心で、直接消費者に販売できる商品は多くなかった。そこで、これまでの「作る産地」から「作って売る産地」への転換を図るため、「売れるものづくり」に取り組んだ。</p> <p>眼鏡・漆器・繊維など産業の技術を生かし、現代のライフスタイルにマッチする生活雑貨、家具用品、食卓用品などをデザインし開発。これらの製品をまとめて「SABAE Style」としてブランド化。大人の男を演出する粋な製品が並ぶ「男の休日」シリーズと、遊び心のある製品が中心の「余暇を楽しむ。」シリーズからなる。</p> <p>「SABAE Style」の製品は平成22年の共同展示商談会「feel NIPPON 春 2010」などに出展し、バイヤーに向けてPRした。また、特産のコシヒカリを使ったパンケーキ「ふわりん」や米粉とイチジクのパウンドケーキなど4種のスイーツを試作し、東京のアンテナショップで発表している。</p> <p>これらの試作品の開発は、事業者の技術向上や異業種交流につながり、地域産業の底上げにも結び付いている。</p>

② 神奈川県内の取り組み

●厚木市（食に関する取り組み）

項目	内容
名称	厚木シロコロ・ホルモン
事務局	(社) あつぎ街おこし応援団
目的	食による街おこし
事業開始	平成17年
品目・店舗数	認定店14店舗・推奨店2店舗
概要	<p>厚木商店会連合会としては、10年以上宝島探検隊という子供向けのキャンプを主催しており、大変人気のある取り組みであったのが、主催者側の体力的限界により閉会。</p> <p>そこで、他の取り組みで街を活性化させようと、厚木商店会連合会の若手メンバー（街づくり推進プロジェクト・チーム）が、食による町おこしを始めた。</p> <p>厚木ゆかりの食材である「シロコロホルモン」に着目し、厚木のお祭りやイベントに参加するなどし、市民への浸透を図った。</p> <p>次の段階として、外部への情報発信を目論んで「B-1グランプリ」に参加することになった。出展にあたり、名称もその後、「街づくり推進プロジェクト・チーム」とは別に「厚木シロコロ・ホルモン探検隊」に改め、「厚木シロコロ・ホルモン」というブランドとして正式に立ち上げ記者発表を行う。</p> <p>平成19年開催のB-1グランプリ富士宮大会では5位。平成20年の久留米大会では優勝し、知名度が急上昇。</p> <p>「厚木シロコロ・ホルモン探検隊」監修の商品が続々と出来、外部発信のためのPRグッズとして効果を上げている。</p> <p>そして、平成22年にはご当地グルメの祭典B-1グランプリが厚木市で開催され2日間で43万人の人出となり地元には大きな経済効果をもたらした。</p> <p>平成22年より、認定制度が始まり、「シロコロ・ホルモン」が食べられる店舗は認定店、雑貨・菓子等を販売している店舗は推奨店として登録されている。</p>

●小田原市（街づくりに関する取り組み）

項目	内容
名称	小田原ブランド元気プロジェクト
事務局	小田原市・小田原市商店街連合会・箱根物産連合会
目的	地域活性化
事業開始	平成20年
店舗数	小田原手形参加店110店舗・小田原どん21店舗
具体例	小田原手形・小田原どん・小田原の匠
概要	<p>小田原市には豊富な地域資源があるものの、市内の経済は20年程前のピーク時を境に下降傾向にある。</p> <p>小田原市は伊豆箱根への通過点となっている、地域資源を十分活用出来ていない、一通りそろっているが中途半端である、などの課題があり、小田原に立ち寄ってもらえるための施策を検討することからこの事業が開始された。</p> <p>異業種である各組織を連携させ、テーマを「技と匠による世界ブランドと小田原手形で賑わいの創出」、目標を「文化を柱とした産業、観光、居住のバランス良い街づくり」とし、「小田原手形」、「小田原どん」の開発と「小田原の匠」のPR活動を行っている。</p> <p>小田原手形</p> <p>定価500円の携帯ストラップ型手形で、飲食店や、物販店などのサービス参加店で提示するとそれぞれの店舗で割引やプレゼントなどのサービスが受けられるもので、商店街を回遊させるツールである。</p> <p>小田原どん</p> <p>小田原の海と大地で育まれた食材を使用し、小田原漆器に盛り付けた丼のことで、「小田原どん」として商標登録されている。また、丼で街おこしをしている全国6地域が参加した「全国丼サミットおだわら」では、2日間で16万人の来場者と14億円の経済効果をもたらした。</p> <p>小田原の匠</p> <p>匠は、インターネットサイト「元気おだわら」での動画配信や、「小田原どん」パンフレットへの掲載によりPRされている。</p>

●三浦市（農・水産品に関する取り組み）

項目	内容
自治体	三浦市
名称	三浦ブランド
事務局	三浦商工会議所
目的	農・水産品の販路拡大
事業開始	平成18年
品目・店舗数	45品目
具体例	まぐろラーメン・マグロカレー・いかの塩辛・ミニ大漁旗等
概要	<p>農水産資源が豊富にある三浦市は市外への販路拡大を目指し、個々の商品の付加価値を高めるため、県の補助金を受けて三浦ブランド商品事業を開始した。</p> <p>対象は、三浦市の農水産物等で、農漁業・観光・技能を活用し独自の工夫を凝らし「三浦らしさ」を伝える加工食品等で、市内で生産・水揚・製造されるものとした。</p> <p>認定品は三浦ブランドのロゴマークのついたシールを張った販売が可能で、現在は一度認定されたら認定品として登録されるが、今後は5年ごとの見直しを行う。</p> <p>販売は、三浦港産直センター「うらり」内のアンテナショップである三浦ブランド館とインターネットショッピングサイトにて行っている。</p> <p>アンテナショップの運営は、三浦ブランド認定事業者で構成される協議会の会員が携わっている。</p> <p>広告宣伝は、のぼり旗、シール、エプロンを作成し、新聞やホームページ、百貨店・スーパーでの催事、イベントや県外でのPR活動を行っている。</p> <p>22年度以降は、加工食品に限らず、観光、技能を活用したのも追加を予定している。</p>



●南足柄市①（食に関する取り組み）

項目	内容
名称	まさカレーパン
事務局	NPO法人金太郎プロジェクト推進委員会
目的	食による街おこし
事業開始	平成19年
具体例	まさカレーパン、まさカレーコロッケ、まさかりんとう等
概要	<p>南足柄市には富士フイルム株式会社の工場があり、市の税収の多くを占めていたが、景気の悪化により大きく落ち込んだ。</p> <p>他にめだった産業のない南足柄市は、何で街おこしをしようかと検討したところ、B級グルメがブームになっていることから食による街おこしを開始。</p> <p>大雄山駅前活性化計画策定検討協議会のメンバーが主体となり、行政主導ではなく、民間主体の取り組みがなされている。</p> <p>金太郎の生誕地であるということに着目し、金太郎のマサカリからまさカレーとネーミングが決定し、その後商品が開発が進められ、まさカレーパンが開発された。このカレーパンは、地元産足柄牛を100%使用し金太郎の息子「金平（きんぴら）」にちなんでゴボウも入っている。</p> <p>発足時のメンバーは18人だったが、参加希望者が増加し、1市5町（南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町）からメンバーが参加している。</p>

●南足柄市②（その他の取り組み）

項目	内容
名称	ご当地ナンバープレート
事務局	南足柄市
目的	市のアピール
事業開始	平成23年4月1日～登録可能
概要	<p>神奈川県内第1号として、二輪車用ご当地ナンバープレートを発行した。市のシンボルキャラ・金太郎とクマ、シカをメインに、足柄平野から見える箱根の明神ヶ岳や富士山、矢倉岳、狩川を配したカラフルなデザインのプレートである。</p>

